

教育学部後援会誌

第4号



ごあいさつ

先日、バスの中で心が温まる光景に出会いました。空席のないバスに二人のおばあさんが乗ってこられました。それを見た小学1年の男の子が、少し躊躇した後「おばあさんどうぞ。」と近くに立っていたおばあさんに席を譲ろうと声をかけました。そのおばあさんは「座らせてくれるの？ありがとう。ぼくはやさしいねえ。」と言って嬉しそうに腰を下ろしました。そのやり取りが聞こえたのか、前に座っていた若い女性も、立っているもう一人のおばあさんに「どうぞ」と声をかけ席を譲ろうとしました。そのおばあさんは次のバス停で降りるからとその申し出を断られたのですが、「ありがとう」と笑顔で応えておられました。当然、手摺りをもって立っていた私には、誰も声をかけてくれませんでしたが、男の子の行動から温かい心の輪が広がったようで、バスの揺れや運転手さんの声も優しく、温かく感じました。

私は、バスを下車してすぐに男の子が通学している小学校に電話をかけ、教頭先生に男の子の行動を報告するとともに、感謝の意を伝えました。

偽装や殺人など、悲しさを通り越し憤りを感じる報道に嘆

教育学部後援会 会長 山崎 敦史

いてばかりいるよりも、もっと身近にある温かさや優しさ、小さな勇気や元気に関心をもち、それらを認め合い、大切にしていくことが、明るく元気な社会をつくるために必要なことだと思います。

さて、島根大学教育学部棟の耐震化工事にともなう改修も進み、この春には新しい教室等での講義やゼミが行われるようです。本後援会では、幹事会の承認を得て、10数年前まで積み立てられてきた積立金の一部を、新しい学生控室の備品整備などの教育環境整備のための資金として島根大学教育学部に寄附いたしました。設備の整った明るくきれいな教室や控室で、さらに充実した学生生活を送ることができると期待しています。

教育関連の様々な法律等の改正を受け、学生達は新しい制度や内容をたくさん学ばなければならないようです。子どもたちの心の理解や指導も容易ではないと思います。身近にいる仲間、日々接している人々や周囲の環境に感謝し、それらを大切にしながら、自分自身で考え仲間と学んでいく力のある教師をめざして頑張ばることができるように会員の皆様と共に応援したいと思います。

最後になりましたが、会員の皆様には本会の活動に対しましてご理解とご協力を賜りますようよろしくお願ひいたします。



「新生」教育学部の歩み

教育学部長の高岡と申します。平成20年度入学生の諸君、そしてご家族の皆様には、誠におめでとうございます。教育学部の教職員一同、心よりお祝い申しあげます。

教育学部後援会は、在校生の保護者の皆さんによって構成されています。皆様のお子様方は、これから、大学で「教育」を学び、教師をめざして勉学に専念する意欲に満ちあふっています。これから約4年間が、一人ひとりの学生諸君にとって有意義な時間であることを、私達は願っております。

さて、島根大学教育学部は、平成16年に組織や教育内容に大改造を行いました。以後4年が経過し、平成20年3月には、「第一期生」が卒業します。この間、後援会会員の皆様にはその動向に絶えず温かいまなざしを向けていただき、たくさんの励ましの御言葉を頂戴しました。皆様の激励を背に受けて教職員全員でひたすら4年間を疾走してまいりました。

昨年8月、中央教育審議会が重要な答申を公表しました。「今後の教員養成・免許制度のあり方について」です。その主な内容は2つ。①大学の学部および大学院の「教職課程」の大規模な改善・充実を図ることであり、②すでに教壇に立っている現職教員も含めて、所有している免許状に有効期限を設け、10年ごとに講習の受講を義務づける「教員免許更新制」の構築です。

一方、わが学部の教育改善への取組みも大きな成果を上げてきました。全国すべての大学を対象として、教育改善の優

教育学部長 高岡 信也

れた実績と計画を認定し運営資金を投入する国の補助事業（「G P事業」と呼ばれています）に、私たちが提案した2つの事業（「教員養成G P」と「特色G P」）が採択されました。この4年間に学部をあげて取り組んできた教員養成実践の試みは、概ね所期の目標を順調に達成していると考えています。密かにではありますが、わが学部は、全国の教員養成系学部の中で「トップ・ファイブに入る教育内容を誇っている」と自負しています。

昨年採択された特色G Pのテーマは「確かな教師力を育む多角的評価の実現－1,000時間体験学修、学生プロファイルシート、面接道場で可視化する教師としての自己成長－」です。

このプロジェクト計画は、21世紀の教師に求められる教育的実践力の育成を学部教育の根底に置き、学部教育組織が総力を挙げて取り組む教育改善の方向を示したものです。

学部改革の継続にとって重要な課題は大学院教育学研究科の改善です。

新しい大学院は、「教育実践開発専攻」と「教育内容開発専攻」の二つの専攻で構成されています。従来の「学校教育専攻」および「教科教育専攻」を全面改組し、学部教育組織との接続も考慮して、教育内容の抜本改革も実現しました。従来の大学院では取り入れられなかった「教育実習」の導入によって、高度な実践力を有する即戦力を育成することもめざしています。

今後も、島根大学教育学部は、全国の教員養成大学・学部に先駆けて、さまざまな教育の改善に取り組む計画です。是非とも、すべての保護者の皆様が、後援会に御参画いただき、お子様方の成長を温かく見守っていただきたいと存じます。

確かな「教師力」を育む多角的評価の実現

「1,000 時間体験学修」「学生プロファイルシート」「面接道場」で可視化する教師としての自己成長

文部科学省が大学教育の改善・充実の観点から、教育方法などの高度化・豊富化につながる特色ある優れた取組を公募し、選定した取組に対して財政支援を行う『特色ある大学教育支援プログラム（以下特色GP）』の審査結果が平成 19 年 8 月 6 日に発表され、島根大学教育学部が申請した【確かな教師力を育む多角的評価の実現 —「1,000 時間体験学修」「学生プロファイルシート」「面接道場」で可視化する教師としての自己成長—】が採択されました。

（※採択は全国の国公立大学から応募のあった 331 件の中から 52 件）

島根大学教育学部では、平成 16 年度以来様々な教員養成上の教育方法の改善に取組んでおり、多数の独創的な教育システムを開発・実践してきました。今回、これらの取組が特色 GP として採択された背景には、今までの学部改革の方向性が一定の評価を得た証であると考えております。

プロジェクトの概要

学生が「確かな教師力」を自ら主体的に育むためには、自己の成長段階を常にモニターし、自らの課題を把握しつつ、その解決の道筋を具体的に探索してゆく「自己評価の視点」を形成することが不可欠であると考えます。

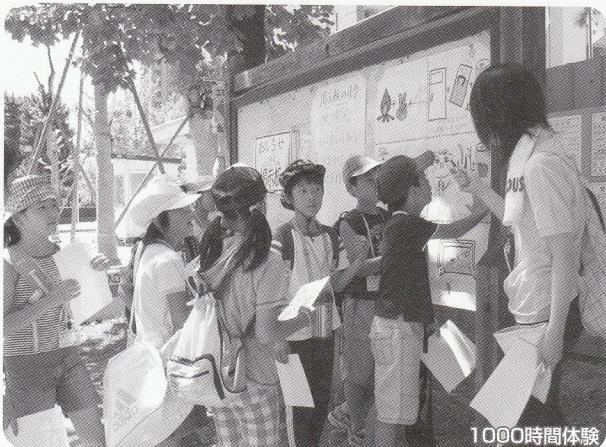
教職という高度な専門職に向かって成長しつつある学生たちが、将来にわたって利用可



面接道場

能な「自己評価の視点」を獲得するためには、その成長過程において「多様な観点をもつ他人視点」と柔軟に交流を持つことが重要なポイントとなります。

そこで、島根大学教育学部では先のポイントを保障するために様々な取組を展開してきました。学校教育実習をはじめとする多様な



1000時間体験



プロファイルシート

教育体験を通じて教職への育ちを評価する「1,000時間体験学修」や、学生の教師力への自己成長を支援する「学生プロファイルシート」、さらにそのプロファイルを手がかりとして、教育実習にのぞむ直前に地域社会で活躍する諸先輩方から評価や示唆を受ける「面接道場」などがそれにあたります。

そして今回、これまでの取組をさらに精緻化・発展させるためのプロジェクト【確かな教師力を育む多角的評価の実現】がいよいよ始動することとなりました。

(具体的な取り組は、以下のとおり)

- ① 「1,000時間体験学修」の質にかかる分析と評価をさらに推し進め、教職への育ちを積極的に評価する「学内資格認定制度」の成立。
- ② 「学生プロファイルシート」の妥当性や有効性を検証するために学生の「教師力」を恒常に調査分析する双方向システムの構築。
- ③ 「面接道場」による学生の社会性の涵養を促すとともに、「学習交流会」などを継続的に実施することで培われる“地域との協同”による学生教育システムの整備。



1000時間体験



1000時間体験



面接道場



学内資格認定



学習交流会



学習交流会



学内資格認定

在学生の声

1000時間体験とともに自己成長

初等教育 石飛 博至



数ある1000時間体験の中で「出雲の子リーダー養成研修会」というボランティアに参加しました。そのボランティアではキャンプやフィールドワークといった野外活動、体験活動を中心としたプログラムを子どもたちに提供しています。一年間を通して、私は班のリーダーとして活動をしました。これは夏のキャンプでの出来事ですが、子どもたちと朝の3時に起きて早朝登山に出かけました。まだ真っ暗な中、懐中電灯の光だけを頼りに山道を登っていました。大人の自分でさえも心細く感じていた中、班の先頭を歩いていた子から後のみんなに向かって「足下滑りやすいから注意！」と声がかかりました。誰に言われたわけでもなくその子は自分で考え、みんなのためを思って声をかけてくれました。同じ班の子とたくさん時間を作り出してきたからこそ出た言葉でした。私はその時、子どもがこうしたいと思いそれを行ふ行動に移せる力、そして友達のことを思いやる力の大切さを教えられ、実感することが出来ました。他にもこの活動を通して、子どもたちからたくさんのことを教えてもらいました。それは自分が教師となった時、また生かしていきたいと思うことばかりでした。

今度、新四回生になるのですが、すでに1000時間の必須時間数を超えている今、ボランティアを通して思うことは、"子どもと真正面から向き合うこと"に逃げないこと、子どもの"自分で出来る力"を信じること、子どもに"こうあってほしい"と願いを持って接することです。これは体験活動を経験しなければ決してわからないことばかりでした。自分にとってこれから的人生を歩む上で、色々な経験が出来たこの1000時間体験は、本当に心の強みとなりました。

卒業生の声

4年間の部活を終えて

健康・スポーツ教育 上本 ゆかり



私は金融系を中心に就職活動を行い、野村證券に内定を頂きました。教員の道も考えましたが、最終的に一般企業を選びました。なぜ野村證券を選んだかというと証券会社のトップで、レベルの高い会社に働きたかったからです。私は4年間テニス部で、3月までは主将を務めていたので就職活動は4月に入ってからと遅めのスタートでした。採用試験はエントリーーシートと面接で、面接は全部で4回でした。いずれも個人面接で、面接内容は自己PRや大学時代に頑張ったことを前面に出しました。春からは社会人の一員として、厳しいこともたくさんあるとは思いますが、責任を持ち、頑張っていこうと思います。

卒業生の声

推薦で京都市教員に採用

数理基礎教育 山根 良介

私が京都の推薦採用試験を受けようと思ったきっかけは、ゼミの先生の説明からでした。また、両親からの後押しもあり、私の力がどこまで通用するのかという気持ちを持って、採用試験に向けて勉強を始めました。書類選考による一次試験免除後、二次試験対策を始めようとしたものの最初は手付かずでした。しかし、自分なりの計画を立ててその日に何をやるべきかをあらかじめ考えることで、勉強のペースを徐々につかむことができ、また、ゼミの先生からのアドバイスのおかげで気持ちに余裕が生まれ、落ち着いて勉強に励むことができました。そして何より、勉強に対する前向きな姿勢を持つことが、合格につながる一番の自信となったと思います。私は京都市教員としてこれから進んでいきます。島根大学の学生であるという自覚と誇りをもって京都市の教育を盛り上げていくと共に、生徒一人一人を大切にする教師を目指していきたいと考えています。

卒業生の声

島根大学職員となって

心理・臨床 勝部 智恵



教育学部を卒業し、この4月に『島根大学職員』として採用されました。私が大学職員になろうと思ったきっかけは、教育支援センターの方との出会いでした。初めて導入された、1000時間の「体験学習プログラム」。不明な点を聞きにいく中で職員の方と親しくなり、大学職員の仕事に興味を持ちました。調べてみると、大学全体の事務、地域住民・企業との関わりなどあらゆる分野の仕事をありました。しかし、試験前まで教育実習がある中で自学できるか不安でした。そこで、生協の公務員講座を利用しました。講座では、講師の先生がわかりやすく簡潔に講義をして下さいました。また、二次面接の練習にも付き合って下さいました。多くの人の助けにより島根大学職員として採用されましたが、これは自分へのスタートでしかないと思っています。これから、大学職員としてどのように役に立っていくのか、未熟ながら探していくたいと思っています。

後援会は、みなさんの会費で運営されています お子様の大学生活を支援する後援会に是非加入下さい

☆会費の納入は、入学手続きの際に配布した封筒に同封されている「銀行振り込み用紙」をご利用下さい。

☆会費納入口座は、「山陰合同銀行島大前支店(普)2702605 島根大学教育学部後援会」です。

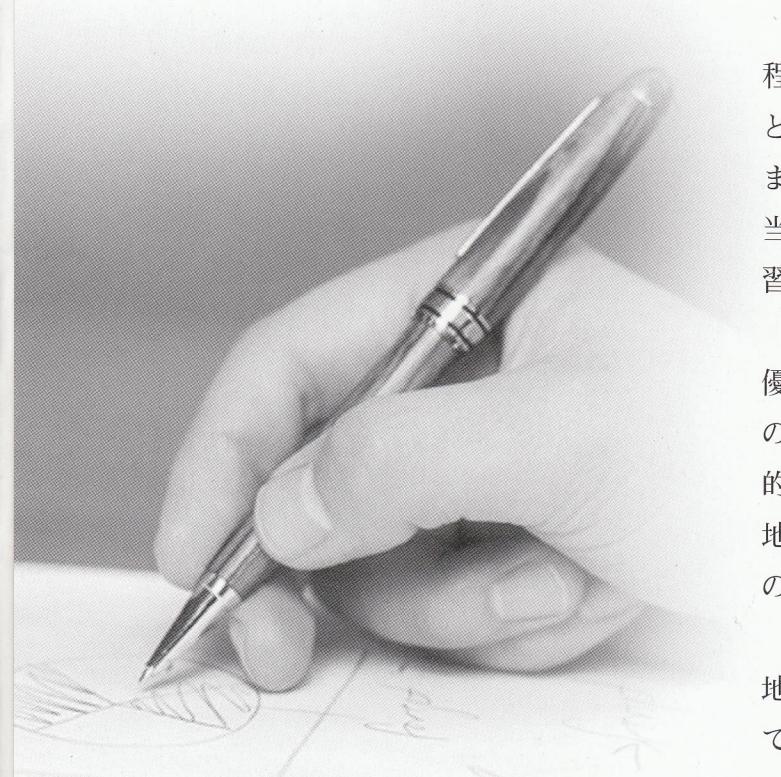
☆お問い合わせは、後援会事務局(TEL.0852-32-6252 教育学部総務係)までお願いいたします。

(メールでのお問い合わせは、koho@edu.shimane-u.ac.jpまで)

教育学部ホームページのURLは <http://www.edu.shimane-u.ac.jp>

2007年4月 教育学部に 〔教師教育研究センター〕 が設置されました

<http://crte.shimane-u.ac.jp/>



平成19年度4月、教育学部をのぞく全学の教職課程科目の運営とクオリティーを一元的に管理することを目的に、教師教育研究センターが始動しました。また教員免許更新制度が導入されるのにあたっては、当センターが中心となって円滑で意義のある更新講習を実施するための基盤整備をすすめています。

教師教育研究センターの名称にもありますとおり、優れた教師を育てるための教育についての研究とその支援についての取組みも、当センターの主要な目的です。個々の教師を育てる教師教育だけではなく、地域と社会を育てる人材としての教師を育てる教育のあり方や方法論の研究を進めています。

こうした取組みをおして教師教育研究センターは、地域とともに未来を創造することのできる人材を育てる教師教育の提案と実践をめざしています。

教師教育研究センター 新任講師のご紹介



百合田 真樹人
YURITA, Makito

13年のアメリカ生活に終わりを告げ、平成19年10月に教師教育研究センターに着任しました。

先祖は尼子氏に仕えておりましたので、島根には親族も多く地縁があります。子供の頃から外国暮らしだしたが、いつかは戻りたかった島根にこうした形で戻れたのを嬉しく思っています。

アメリカでは社会観察を材料にした政治／歴史哲学を、教師教育を舞台にした研究をしていました。また担当していた教職課程講座では、社会と個の多様性の双方に責任をもつ教師のあり方を考えさせる教師教育の実践に取り組んできました。

社会の未来を主体的に考え、積極的に実行していく教師を育てる教師教育の実践に向けた様々な取り組みをしていきたいと思います。よろしくご支援くださいますようお願い申し上げます。

平成19年度 教育学部後援会幹事名簿 (19名/順不同)

地区	氏名	課程	学生氏名	備考
松江市	山崎 敦史	院 2	山崎 順子	会長
安来市	宮本 徹也	院 2	宮本 敬子	監事
松江市	黒田 徹	学校教育4	黒田 達也	会計幹事
雲南市	堀江 安男	学校教育4	堀江 智史	副会長
松江市	飯塚 節子	学校教育4	飯塚 洋平	
松江市	山根 茂雄	学校教育4	山根 舞	
米子市	内田 義巳	学校教育3	内田 ひとみ	
雲南市	西山 成信	学校教育3	西山 圭信	
簸川郡	曾田 悟	学校教育3	曾田 茉莉香	副会長
松江市	小村 陽悦	学校教育3	小村 さやか	
浜田市	驛田 省吾	学校教育3	驛田 久子	
安来市	大西 啓治	学校教育2	大西 美貴	
松江市	福島 浩	学校教育2	福島 彩	監事
東出雲町	福間 真澄	学校教育2	福間 春奈	
出雲市	稻田 隆嗣	学校教育1	稻田 隆志	
米子市	河田 健志	学校教育1	河田 紗絵香	
隱岐郡	木村 一則	学校教育1	木村 佳則	
出雲市	角 美幸	学校教育1	角 真理子	
松江市	長谷川 芳人	学校教育1	長谷川 圭	



後援会による教育学部支援事業

平成18年度に実施した主な事業はつぎのとおりです

1 学生の課外活動支援(約60万円)

部活動、大学祭等の資金援助のほか中四国大学学生交流経費の一部を補助しました

2 教育実習支援(約100万円)

副免取得希望の学生の教育実習経費に補助をしました

3 国際交流支援(約50万円)

韓国、中国の交流大学への学生派遣、教員派遣経費の一部を補助しました。

4 広報事業(約50万円)

「機関誌」を発行し、教育学部の教育・研究活動学生の皆さんの活躍をお知らせすることにしました。

5 教育環境整備支援(約30万円)

学部の教育環境の改善を図る経費を補助しました。

6 就職支援(約20万円)

就職情報の収集、就職先の開拓等学生の就職活動を支援する活動に補助しました

発行：島根大学教育学部後援会

発行日：平成20年3月3日

発行所：島根大学教育学部内
教育学部後援会事務局

所在地：〒690-8504
松江市西川津町1060
TEL. 0852-32-6251
FAX. 0852-32-6259

印刷：(株)谷口印刷



おまかせ下さい!!

企画・デザイン・撮影から、印刷に関わるetc.
また、ホームページ、CD-ROMのご相談もお気軽に。

 株式会社谷口印刷

TANIGUCHI PRINTING CORPORATION

〒690-0133 島根県松江市東長江町902-59 (朝日ヒルズ工業団地)

TEL (0852) 36-5888 (代) FAX (0852) 36-5889

E-mail:admin@tprint.co.jp http://www.tprint.co.jp